

# 愛知大学国際コミュニケーション学部 「フィールドワーク入門」における アンケート調査法および地図利用・ 簡易作成法についての教育内容報告

Introductory Fieldwork Education on Social Survey and Geodetic Survey

加納 寛

KANO Hiroshi

愛知大学国際コミュニケーション学部

*Faculty of International Communication, Aichi University*

## はじめに

「フィールドワーク入門」では、2回分の講義を担当しており、タイでのフィールドワークに関する情報提供とともに、自分がこれまでフィールドワーク的手法として訓練を受けてきたり<sup>1)</sup>実践してきたりしている方法の一部として、アンケート調査法と地図利用・簡易作成法を原理的な観点から教育している。

どちらもともに容易に実践できると思われがちでありながら、実はそうではなく、様々な手続きを踏みつつ実施する必要があることを学生に理解させ、実際にこれらの手法を活用する際の入口および道案内になるようにする点が、教育の主眼である。以下、各単元につき、その主要な着眼を示しておきたい。なお、各回に受講生に配布するレジюмеについては、毎年変化する宿題部分を除いて、本稿末尾に付した。

## 1、アンケート調査法教育

アンケート調査法教育における主要な着眼点は、次のとおりである。

### ① フィールドワークが被調査者に及ぼす影響（とくに悪い影響について）

フィールドワークは、現地の被調査者に対して負担となることを理解させる。したがって、興味本位の安易な「調査」や、既に先行研究において結果が出ている調査、横柄な調査は慎むべきであり、止むを得ない場合に限り調査を実施すべきことを理解させる。

---

1) 東南アジア地域研究におけるフィールドワーク訓練については、アジア農村研究会編『学生のためのフィールドワーク入門』（めこん、2005）などを参照されたい。報告者も、東南アジアにおけるフィールドワーク実践についてアジア農村研究会で学ばせていただいた一人である。

## ② 被調査者に受け入れられやすい態度

フィールドワークは、被調査者の協力なくして成り立たない。したがって、調査の成果を上げるためには、彼らに受け入れられやすい態度や服装でフィールドワークに臨むことが重要であることを理解させる。

## ③ 質的調査と量的調査の差異

フィールドワークには質的調査と量的調査とがあることを理解させ、質的調査にはインタビュー法など、量的調査にはアンケート法などがあることや、それぞれの特徴を講述し、各自の性格や能力、知りたい情報などによって、最も適した方法を選ぶべきことを説明する。

## ④ 先行研究を調べることの意味

低学年の学生ほど（ときには高学年の学生も）、先行研究を調べることの意義を理解しておらず、また先行研究を探索する能力を持たないことが多い。先行研究を調べることが、ゴミのような調査を防ぐことや、より洗練された調査内容を導くことを理解させる。

## ⑤ 母集団を定める必要性を理解させること、悉皆調査が不可能な場合の標本抽出法

アンケートが容易であるとの認識は、母集団を曖昧にしてしまうことや、標本抽出法を適当に実施してしまうことによるものである。母集団を定めないままに、そのあたりを通りかかった人や知り合いのみにアンケートをして「調査」と称しているクズ「調査」が多いことが、学生の認識を安易にできてしまっており、この点について事例をまじえながら理解を促している。

## ⑥ 質問項目の作成法

質問の仕方や配置によって、回答が変化してしまうことについて、具体例を示して実際に学生に考えさせながら理解させている。



写真 1 質問票を用いた半構造化面接調査（タイ国ピサヌローク県）

### ⑦ 統計の必要性

本学部の学生の場合、数学に対してすさまじい嫌悪感をもつ者が多く、しかもアンケート調査が量的調査の一手法であることを理解していないため、その分析に統計がきわめて有用かつ不可欠であることを理解していない者がほとんどである。統計の必要性を講述し、簡易な統計手法や相関、検定について、概要を理解させ、関心を持たせている。

### ⑧ 被調査者のプライバシー保護の必要性、調査者の社会的責任

被調査者のプライバシー保護の必要性や報告の義務など、調査者の社会的責任について理解させ、安易な「調査」の量産を防いでいる。

とくに困難なのは、④、⑤、⑦の各項を理解させることである。例年、これらの理解度を宿題レポートを通じて調べているが、正答率は50%程度に低迷しており、出席していても講義をほとんど聞いていない者が多いことがわかっている。

## 2、地図利用・簡易作成法教育

報告者自身は測量士であるものの、「フィールドワーク入門」において教育する地図の簡易作成法については、本学部の「国際フィールドワーク」が基本的に国外で実施されることを考慮して、精度を犠牲にし、現地で不審に思われぬ、危険のない範囲での調査法を、つとめて簡便に示すことにしている。一方、地図の作成法について原理を理解することは、フィールドワークにおいて物質資料の実測を実施する際にも役立てることができると考えられる。

「フィールドワーク入門」における地図利用・簡易作成法教育の主要な着眼点は、次のとおりである。

### ① フィールドワークにおける地図活用の必要性

受講生のなかには地図に不必要に嫌悪感をもつ者もあり、簡易な地形図判読もままならない者も多い。フィールドワークにおいて、地図を活用することがどのように重要であるかを理解させる。

### ② 地図の定義・原理・種類・要素

地図の定義や原理にもとづいて種類について講述し、フィールドワークの内容に応じて最適の地図を選択できるようにしている。もっとも、地形図を「初めて見る」という学生も多く、地図の種類や要素についての受講生の理解は心もとないところである。

### ③ 方位の測定法

トータルステーションはもとより、トランシットなどの三脚付機器を現地で使用することは現実的ではない。講義では、「北」の種類について講述した後、ハンド

ヘルドの方位磁針や、方位磁針付単眼鏡の使用法を実例を示しながら教えている。

#### ④ 距離の測定法

距離の計測にメジャーを用いることも、現地の状況によっては困難であるため、精度は著しく劣るが歩測の方法を講述している。それにあわせ、身体の各部位を用いた距離の測定法も概要を教えているが、調査地ではきわめて便利なこの方法も、教室内で大人数に対してその有益さを実感させるまでには至っておらず、残念である。

#### ⑤ 高度の測定法

レベルなどの三脚付機器を現地で使用することは現実的ではないため、ハンドレベルの使用法を実例を示しながら教えている。これを活用することにより、建築物の高さ等もある程度正確に計測することができるようになる。

#### ⑥ 図化の方法

本来は図化の方法も理解させるべきであるが、大人数講義であるため、原理のみ紹介するにとどまっており、この点は実際のフィールドワークの事前研修において実地に指導している。

#### ⑦ GPS の活用法

現在の簡易的な地図作成にはハンドヘルド GPS を用いるのが最も容易であり、学生もカーナビ等で親近感を持っているものが多いため、ハンドヘルド GPS 使用の実例を紹介している。

#### ⑧ GIS の活用法

作成した地図を分析し、研究に使用できるようにするため、GIS の概念を紹介し、Mandara などの無料ソフトの使用例を示している。Google Earth の GIS 応用法についても紹介している。

#### ⑨ 国外における地図作成・活用上の注意

地図は多くの国において軍事機関が作成しており、とくに大縮尺の地図については取扱いに注意を要する場合があることについて注意を促しているが、日本人学生には理解が難しいようである。

なお、地図利用・簡易作成法の教育後、20分ほど、タイにおけるフィールドワークについて、注意点を含めて講義している。

地図の利用や簡易的な作成法については、数学（というよりは算数）に極端な恐怖感をもつ者が多い本学部の学生への教育の都合上、なるべく三角関数などを用いなくて講述するようにしているが、縮尺や比例の話をした時点で思考停止に陥っている受講生も多く、彼らにいかにか親しみをもって地図に接触させるか、常に試行錯誤している。一旦フィールドに出れば否応なく地図の恩恵を実感するわけであるが、事前教育である大人

数講義のなかでその状況を実感させることは実は相当に困難である。この点、どの時点でどの範囲まで教育するか、さらなる検討を要する。

## 結び

以上、「フィールドワーク入門」の2回の担当回のなかで教育しているアンケート調査法と地図利用・簡易作成法について、その着眼と課題を概観してきた。「フィールドワーク入門」全体のなかでの位置付けや分担、必要とされる調査手法などについては、今後、担当教員が変化したり、本学部の「国際フィールドワーク」の性格が変化したりしていくなかで、不断に再検討していくことが必要であろう。そのなかで本報告が少しでも役に立てば幸いである。



写真2「国際フィールドワーク（タイ）」における学生の小学校調査

参考：各回の配布レジュメの実例

## フィールドワーク入門（加納 1）

アンケート調査の方法：アンケートって手軽？

加納 寛

### 0 フィールドワーカーの要件

- ①礼儀正しい（服装、態度、話し方）
- ②他人の話をしっかり聞ける
- ③相手が話したくなるような雰囲気を作れる

### 1 アンケート調査とは何か？

- 「①既存資料では得られない、調査対象の意識、行動、特性などを把握するために、  
 ②一定のルールで調査の対象を選択し、  
 ③様式化した質問への回答をもとに、  
 ④多数の人に回答を求め、  
 ⑤特定の期間内で  
 ⑥統計的処理をおこなう調査法」[酒井、2001:19]

### 2 事前調査

- ① 既存資料の検索・調査（もう既に結果が出ていないか？ 問題の所在の把握）  
 =>ムダな調査・ゴミのような調査を防止する

### 3 調査準備

- ①テーマの設定（何を知りたいのか？）
- ②母集団の選択（誰（どのグループ）について知りたいのか？）
- ③標本の選択（どのように標本をとれば母集団の傾向を正確に反映する可能性が高いか？）  
 =>無作為抽出
- ④質問票の作成（何を、どのように聞いていくか？）  
 =>作為的に結果を導くことがないように注意
- ⑤計画の作成（調査方法、回答収集方法、調査期間）

### 4 調査実施

手順どおりに運ぶだけ

留意事項：誠意（信義）・礼節の保持

=>あなたの調査は被調査者のありがたい協力によって成立することを認識せよ！！

=>回収率 UP

## 5 統計処理

入力（慎重に・・・ ミスがないように・・・）ミスすると調査の苦労が水の泡

統計に習熟せよ（**度数分布、中心傾向、散布度、相関、検定**・・・）。

=>長い間練られてきた先人の知恵を利用!!

## 6 報告

道義的義務

## 参考文献

### 社会調査の読み方

平松貞実、1998、『世論調査で社会が読めるか：事例による社会調査入門』新曜社

谷岡一郎、2000、『社会調査』のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書

### 社会調査実施全般参考書（とくに実践的なものを中心に）

森靖雄、1996、『地域調査入門』自治体研究社 =>読みやすい、わかりやすい

森靖雄、1989、『やさしい調査のコツ』大月書店 =>読みやすい、わかりやすい

酒井隆、2001、『アンケート調査の進め方』日経文庫 =>読みやすい、実践的

福武直、1984、『社会調査（補訂版）』岩波全書=>本格的

### 統計参考書

山内光哉、1998、『心理・教育のための統計法（第2版）』サイエンス社

=>例題が豊富で、とてもわかりやすい!!

増山元三郎、1980、『数に語らせる（第2版）』岩波書店

次回宿題：(略)

## フィールドワーク入門（加納2）

地図の利用、タイにおけるフィールドワーク

加納 寛（測量士）

## 0 アンケート調査復習

宿題の2記事は、どこかどのように異なるか？

- 1) 母集団
- 2) 標本の選択
- 3) 質問票その他

## 1 地図の利用

地図とは何か？：「地表の形状を一定の約束に従って一定の面上に図形等に表示した画像」

距離：縮尺

方位：さまざまな「北」  
 標高：等高線の利用  
 日本における「地形図」  
 国土交通省国土地理院  
 5万分1、2万5千分1、1万分1  
 国外における地図とその利用  
 作製機関（軍、民間）  
 入手  
 地図と軍事情報  
 地図の利用についての新しい方法  
 GPS  
 インターネットによる航空写真閲覧  
 GIS

## 2 タイにおけるフィールドワーク

事前調査：・欧米人・日本人による調査報告は膨大  
 ・タイ国政府・タイ人研究者による統計・調査=>国立図書館、大学図書館等  
 ・地図の入手：タイ国軍最高司令部地図局  
  
 調査実施：・調査許可：NRCT（National Research Council of Thailand）  
 ・現地語の習得（調査手法によっては絶対条件ではないが、習得が望ましい）  
 ・タイにおける礼儀等の常識の習得  
 ・現地における協力者の確保（あった方がスムーズ）  
 ・管轄役所まわり（群庁、区役所、村長、地区委員等）  
 ・都市・農村の差  
 ・報告書提出

## 3 比較文化フィールドワーク（タイ）の歩みと実際

調査協力機関： 国立ナレースワン大学  
 調査地： ピサヌローク県ムアン郡ター・ポー行政区  
 調査コンセプト：安全（まずは安全第一!!）  
 変化（大学の新しいキャンパス周辺における商店街の成立や周辺農村の変貌）  
 交流（日本人学生：タイ人学生：被調査者）



調査手法： インタビュー、測量、観察、実測、写真・ビデオ撮影、参与

1) 1999年度（第1回目・報告書刊行済）

ナレースワン大学新校地周辺商店街調査

参加者13名（タイ語履修者13名）

2) 2000年度（第2回目・報告書刊行済）

ナレースワン大学新校地周辺農村変化基礎調査

参加者8名（タイ語履修者4名）

3) 2001年度（第3回目・報告書刊行済）

ナレースワン大学新校地周辺農村主題調査

（村落における寺院、小学生の生活、衣服、台所道具、大学食堂）

参加者10名（タイ語履修者8名）

・はじめての班別主題調査

・はじめての農村民家宿泊（被調査者との交流が劇的に増大）

4) 2004年度（第4回目・報告書刊行済）

鳥インフルエンザのために2003年度から延期になったもの

ピサヌローク市街地主題調査（食生活、小学生の生活、居住、食堂、雑貨店）

5) 今後の見通し